

第4回

都心～ウォーターフロント間における連節バス等運行に関する協議会

令和2年12月2日

第4回 都心～ウォーターフロント間における連節バス等運行に関する協議会

1. 日 時 令和2年12月2日（水） 10時00分から12時00分

2. 場 所 三宮研修センター

※新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、Webでの会議を併用

3. 出席者 委員15名、オブザーバー5名（敬称略）

○委員

・学識経験者

小 谷 通 泰

宇都宮 浄 人（欠席）

長 濱 伸 貴

松 中 亮 治

・国

田 橋 一

・交通事業者

浜 口 年 夫

・沿線団体

渡 辺 元 樹

森 本 真 弥（代理：福浪）

長谷川 博 文

渡 邊 真 二

山 田 大 介

・庁内関係者

樋 野 創

本 田 一 浩

白波瀬 浩 司

山 田 大 輔

・オブザーバー

岩 野 住 之

大 槻 佳 彦

中 村 幸一郎（代理：田畑）

加 古 裕二郎

松 村 賢 一（欠席）

安 藤 義 治

4. 次 第

1. 開会

2. 議事

(1) 本格運行に向けた取り組み

(2) トータルデザイン

(3) 令和2年度のPR

(4) 今後のスケジュール

3. 閉会

1. 開会

○事務局

時間となりましたので、第4回都心～ウォーターフロント間における連節バス等運行に関する協議会を開催します。

年末のお忙しい中、当協議会にご出席いただきありがとうございます。本日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ウェブ会議と会場を併用した開催としています。何かとご不便をおかけするとともに、ウェブ会議へのご協力に改めてお礼申し上げます。

本日の会議は公開となっております。写真等の撮影は、出席者の紹介の後までになります。ご了承のほど、よろしくお願い致します。

第3回の会議は、8月に書面にて開催し、運行計画の検討状況やバスのデザイン等について説明させていただきました。委員の皆様からは、走行環境の整備や沿線企業等との連携、シティループとの連携、PRの推進などの幅広いご意見をいただきました。

本日は、いただきましたご意見を踏まえ、現在の検討進捗や今後のPRについて、説明させていただきました。専門的な見地や沿線事業者の視点からなど、様々なご意見をいただければと思いますので、よろしくお願い致します。

配布資料の確認、及び出席者の紹介

2. 議事

(1) 本格運行に向けた取組みについて

○委員

本格運行に向けて全体的に整理され始め、安心感を持っています。

新神戸駅と結ぶことは、非常によいことだと思います。シティループが各駅停車だとすると、新神戸駅とハーバーランドをダイレクトに結ぶのは、特急電車・快速電車と言えます。このオペレーションをうまく組めば、港湾部の開発の価値も大きく上がっていくと思います。新神戸駅と直結する連節バスを持つエリアとして、企業やお住まいの不動産価値の向上に結びつくことを期待しています。

道路改良など運行に向けた見通しが付いたので、ここからはまちづくりとの紐付けを意識した方がよいと思います。

ハード面としては、バス停が情報や滞留のコアになることで、新しい乗り物の利用に紐づけばいいと思います。何と紐づけるのかを意識する必要があります。

目に見えないソフトな部分として、できたらと思っているのが、パークアンドライドのような取組です。例えば、駐車場と乗車割引が紐付いていて、ハーバーランドに車をおいて、連節バスに乗り、観光やビジネスをして、もう一度帰ってきて娯楽を楽しむことができる、といった紐付け方が必要と思っています。

○委員

運行開始が間近に迫っています。日本でもBRTが東京や横浜などいくつかの都市で走り出しています。どうしても目立つが故に色んな意味で注目されることは覚悟しておかないといけないと思います。

注目されることはプロジェクトにとってはプラス面が大きいですが、何か問題やトラブルがあるとネガティブな注目をされてしまう。残された時間で、より慎重に、どう完成度をあげていくかが非常に重要となってきます。

おおよそ計画が固まってきている中で確認ですが、ポートタワー前のバス停について、

行先が違うバスが2台一緒に到着するダイヤではないということでしょうか。

○事務局

ダイヤについては、まだ完全に決まっていますが、4月からは30分～1時間程度の運行、7月からは4台体制で20分間隔の運行を予定しています。

4月は車両数が少ないので、ダイヤが重なることは想定していませんが、4月の7月になると、遅れ等がある場合に重なる可能性があると思います。その際のお客様への案内はしっかりしたいと思っています。

○委員

バスが2台重なる場合、手前に既にバスが停車し、その先に行先の違うバスが後から来ても正着ができるバス停の構造にする必要があります。

また、新神戸駅への乗り入れは非常に有効なルートであると思います。一方、既存の市バスやシティループ等の路線バスとの共存について考えることとなります。明確なコンセプトが必要で、各駅停車と快速電車といったすみ分けが重要になると思います。

お客様の乗降の方法としては、基本的に後乗り・前降りとの説明でした。他都市では、均一運賃で前乗り・後降りの方式を採用しているところもあったと思います。機器の関係でハードルは高いかもしれませんが、この部分はしっかり検討してほしいです。利用者と連節バスとの直接的な接点となるので、議論していく必要があります。

最後に、このルート上に優先レーンやPTPSなど、バスをより快適に走らせる工夫を今後考えていく必要があると思います。

○事務局

ソフト面でのまちづくりとの結び付けとして、パークアンドライドのお話をいただきました。連節バスに関し、ハーバーランドのまちづくり協議会の方々とも話をする中で、駐車場の事業者の方もおられました。話の中では、観光目的で意外と多いのが西日本の方で、四国の方から来られ、駐車場に車を停めて観光をする需要も多く、連携はよいことだということでした。そういった面からアプローチすると、パークアンドライドでこのバスやシティループも含めて連携するという可能性は今後、大いにあると考えています。

バスの快適性につながる優先レーンやPTPSについて、取組みとしてはなかなか有効な取組みと思いますが、既存の交通状況や交通管理者との協議もありますので、長い視点での取組みになると考えています。

○事務局

信用乗車に関しては、我々もあまり事例がない中で、どのように対応すべきか考えています。

乗降方式については、神戸市内は後乗り、前降りが標準となっています。市バスでは、ツータッチ方式をこの春より採用すると聞いています。市バスとの整合性は重要で、バスによって乗り方が違うとお客様は混乱すると思います。まずは後乗り、前降りを始めさせていただき、1日乗車券等で信用乗車の取組みを進めていきたいと考えています。

○委員

貿易センタービル前のバス停の検討をしていただき、感謝しています。ただ残念ながら、バス停は設置できないとの結果となり、諦めざるを得ないと思っています。

磯上周辺のエリアは、三宮駅前と東遊園地前が隣接するバス停で、2つのバス停にアクセスでき、ハーバーランドに向けても、新神戸駅に向けてもバス停を利用できることはありがたいと思っています。

○委員

連節バスに期待しており、ハーバーランドとしても全面的に協力したいと思っています。

神戸駅への接続は期待していますが、神戸市からは現状では物理的に難しいと聞いています。そこは実現に向けて引き続き検討していただければと思います。

○委員

ハーバーランド側からと三宮側からと、メリケン・中突堤がつながることは非常にありがたい話でワクワクしています。

中突堤の停留所は両方面から来るので、停留所も2つできありがたいです。

その中で、ルート上にメリケンパークとポートタワーの南をつなぐ横断歩道があり、バスは1回の運行で横断歩道を4回通ることになります。

協議会として、またメリケンパークの指定管理の代表として、にぎわいづくりに関し「いつでも誰かが何かをやっている公園」として、大きなイベントはない時も、土日人が来てもらう工夫を考えていますので、連節バスはありがたいと思っています。

ただ、それによって横断歩道を通るお客さんが今より多くなることで、渋滞が起きることを心配しており、その対策について考えていただきたい。例えば、中央分離帯を利用した道路拡幅や、メリケンパークオリエンタルホテルに用事がないお客様がこの道に入ってしまうことを防止する「この先メリケンパークオリエンタルホテル以外は行き止まり」などの看板の設置、駐車場も含めたソフト面など、色々と車の交通量を抑える方法があると思うので検討をお願いします。

○会長

今は需要がありませんが、新港突堤西地区は、来年の後半くらいから施設が開業する予定と聞いています。時期的にはいつになるのでしょうか。来年のプレ運行とうまく重なれば需要を確保できます。

○委員

我々もこのプロジェクトは期待しており、進めていただきたいと思っています。我々の街区開発は、年明けより随時竣工し運用を開始していきます。フェリシモをはじめ、オフィス棟が出来、通勤者が発生してきます。色々意見を聞いていますと、神戸駅との接続は期待値として高く、ハードルも高いですが、引き続き検討をお願いしたいと思います。

また、第二突堤等、将来的な開発も随時行われていくので、今後バス停のあり方も協議事項として出てきますので、引き続き、ご協力・ご検討をお願いしたいと思います。

○事務局

中突堤については、色んな所でのぎわいづくりについての話を聞いています。一方で道路交通の課題もでてきますので、道路管理者、港湾局とも連携しながら考えていきたいと思っています。

にぎわいについての今後の取組みとしては、資料でも説明したパークレットなどを考

えていきたいと思っています。その中で、横断歩道のあり方や警備のあり方などの取組みについても協議をしていきたいと思います。

新港町に関しては、先日、神戸市港湾局から第二突堤の事業者公募を開始したところです。今後も順次開発が進む可能性もあります。中突堤と同様のバス停での待合スペース、賑わい創出との連携などについて、公募に組み入れることができないか等、今後も検討していきたいと思います。

○委員

中突堤の道路について、南北の車の行き帰りの中に横断歩道があることは以前からの課題でありました。道路拡幅は物理的に難しいですが、一方で、道路の車道が広がった場合には車が入ってきて、逆に混雑するというこも考えられます。

今後、ポートタワーのリニューアルや、その北側の中央ビルの再整備等を進めていく中で、人の誘導などアクセス面の検討も今後していく必要があると思っています。タワー周辺が複雑な構造になっている中で、自動車の混雑解消にも資するアクセス方法については検討課題と捉えています。

新港突堤西地区については、先ほど説明がありましたが、令和3年から順次、施設がオープンしていき、人々が訪れて来る、新しいまちができます。

第一突堤からまちが形成されていきますが、第二突堤やその周辺部も再開発していく中で、バスとの連携は非常に重要になってきます。今は資料のバス停の位置からの運行となりますが、まちが成熟していく中で、どのような位置やどのような連携がいいのかは一緒になって検討していきたいと思っています。

○会長

非常に大事な問題であると思います。新たな連節バスの運行に伴って、周辺のまちづくりと連携させながら、歩行者や公共交通を優先できる空間をどう作っていくのかは、今後色々と工夫していただく必要があります。

○委員

観光利用と通勤利用のニーズをきちんと把握しておかないと、取組がぶれてしまわないか気になっています。

バスの乗降箇所の関係については、神姫バスも先行事例をたくさん見ていると思いますので、それらを参考にさせていただければと思います。通勤の方の乗降はスムーズと思いますが、観光の方などが間違った箇所から乗車するような状況になると、ダイヤが少し遅れてくることにもなります。全ての扉にずっと人を張り付けるのは難しく、実証実験の時しかできないと思いますので、その結果を踏まえ検討していただければと思います。

○事務局

ニーズの把握について、通勤需要は、コロナ渦で状況がだいぶ変わってしまっています。新港町の通勤の需要に対するアンケートは、今企業の方とやり取りをしているところです。

○事務局

現在、新港町に来られる企業の方と通勤のアンケートを随時行っていますが、企業側で通勤に関する会社の規定がまだ定まっていないのが実情の様子です。

三宮からの通勤距離が2 km以内というところで、アンケートをとった企業の従業員の中には近いので自転車や歩くという意見もあり、会社が通勤費を支給してくれるのであれば乗るといった意見があるようです。

今後、この通勤需要の他にも、新港町に住む方が三宮方面や神戸方面に向かう通勤の需要にもつながると思っています。将来的な見込みも含め、通勤の運行は十分に確保したいと思っており、企業の方とも相談しダイヤを考えていきたいと思っています。

○委員

バスの乗降方法については、神姫バスで既に連節バスが導入されている地域の情報を収集し、どのような形が一番スムーズに行くのかをよく検討し、本格運行に活かしてもらいたいと思います。

○委員

交通管理者としては、神戸市と事前に協議を進めています。当然、地元のニーズに応えるのと同様に、安全管理についてもお願いします。

特に今回、本格運用になれば、乗務員が1名で長さ18mのバスを動かします。運転もさることながら、3つのドアからの乗降も一人が管理するので、やはり危険が生じてくることは容易に想像できますので、安全管理に関する乗務員への指導も今後やっていただければと思います。

○委員

兵庫国道事務所としては、国道2号の京橋交差点の改良を進めていきたいと思っています。

○委員

シティーループについては、連節バスと連携を図って、一緒に沿線の活性化に努めていきたいと思っています。

○委員

連節バスを走らせることにより、沿線の観光施設の活性化につながることに期待しています。観光サイドからもPRに協力していきたいと思っています。

現在、観光の足になっているシティーループとどのように連携していくか関心が高いです。シティーループは観光案内所でもチケット販売していますので、旅ナカの観光客にPRする意味でも、1日共通券など分かりやすい仕組みが望まれると思います。

○会長

皆様方からいただいた意見について、需要面や安全運行等に関して、事務局で何か補足して説明することはありますか。

○事務局

安全面に関しての取組としては、まもなく連節バスの1台目が当社に到着しますので、お披露目式の終了後、乗務員への教育、習熟運転を行っていきます。また、神姫バスでは現在、三田営業所に連節バスが5台ほどあります。今回神戸の連節バスを運転する乗務員は、三田の方で現在訓練をしています。神戸で走る車種とは別のベンツ製のものですが、1台目が入るということで、随時訓練をして、危険箇所等、乗務員に必要な教育は行っていく所存です。

○委員

このプロジェクトがよい点として、交通の関係の方とまちづくりの関係の方がおられることであり、まさにこの委員会が、今回の連節バスのあり方を表現していると思います。

当然、安心・安全性や採算性を含めて、連節バスを通すことは交通インフラとして重要です。さらに、まちづくりの面では、沿線を通るインパクトのある連節バスを如何に使いこなしていくかという波及効果への紐づけが必要です。

神戸市からの視点では、にぎわいや活性化が目標であり、ウォーカビリティの高いまちをつくるのが連節バスの意義でもありますので、まちづくりの面の仕込みをいち早くしておかないといけないと思います。

連節バスが開始してからも、神戸市の公共交通以外の部署との連携や、市だけではなく、地元の協議会や事業者、港の方の事業者等の協力を得ていく必要があります。官民協働でいち早く仕込んでおけるかどうかにかかっていると、丁度その時期だと思っています。

○委員

皆さんからの色々な意見や指摘に耳を傾けていただき、まずは運行開始までに行き届くことをきちんとやっていただきたいと思います。短い限られた時間で、大変なご苦労があると思いますが、開業までの時間は貴重です。是非、有効に活用して、より良いサービスを提供できるように進めていただければと思います。

開業後も、協議会に参加いただいている皆様方との連携等も含めて、市民や観光客の皆さんに使っていただける、利用者に満足いただけるサービスを提供できるように日々改善していく努力は必要だと思います。

○会長

残された時間で、運行計画や様々な実務的な準備も大変だと思います。最後の詰めをきちんとやっていただくことは、極めて大変なことだと思います。新たなまちづくりの契機とするために、沿道の皆様もそうですが、なぜここで連節バスなのかを市民に理解していただくことが成功につながる鍵だと思います。

(2) トータルデザイン、令和2年度のPR、今後のスケジュールについて

○会長

新型コロナの感染症拡大等がどうなるか読めない状況で、当初予定されていたイベントも不確定になってしまい、残念な状況です。

今年、横浜のベイエリアで同じような連節バスが「ベイサイドブルー」という名称で運行されています。路線名のアンケートは、神戸らしい名前を皆様で選んでいただければと思います。

プレ運行では、たくさんの方に乗っていただきたい一方で、新型コロナウイルス感染症の対策を取らないといけないという難しい状況にあります。事務局で感染症対策と今後のPRイベントなど、何か考えていることはありますか。

○事務局

現状は新型コロナウイルス感染症の重症者数が増えている状況にあります。当初、12月13日に三宮センター街で連節バスのPRイベントを考えていました。これに関

しては一旦延期という形で、コロナの状況が落ち着いてから実施したいと思っています。交通管理者や商店街との相談の中でも指摘を受けていますが、感染症拡大が起こらないように対策をとりながら行っていきたいと思います。

○事務局

弊社のバスの感染症対策の取組みとして、現状の路線バスでは、乗務員席にシートをつけたり、一つ後ろの座席を使用制限させていただいたり、換気のため適宜窓を開けさせてさせていただいたりしています。

連節バスに関しても、対策をどのようにとるかを社内でも協議しており、既に路線バス等で行っている内容はしっかり行っていくことを前提にしています。プレ運行で社会実験のため係員を立たせていただく際には、併せて、マスクの着用をお願い等、人的な対応を含め行っていきたいと考えています。

○会長

今回のプレ運行では沿線の皆さんと連携したイベントの予定は特になのでしょうか。

○事務局

プレ運行では、昨年度までのようなイベントの連携の形は考えていません。今回は、新型の車両が走ることが一番のPRになるとの考えで行います。

沿線事業者との連携を図っていく必要はあると考えており、現在、接触しているところです。連携の内容としては、まずはその施設へのアクセス手段として連節バスを紹介いただくことから始め、イベントの開催時での移動手段として、さらには連節バスを契機に複数施設を含めたイベントの連携に繋げ、その移動手段として連節バスやシティループを使っていただく取組にしていきたいと考えています。

○委員

以前の会議でも言いましたが、私どもは観光船を運航しておりまして、モザイクの観覧車やポートタワー、海洋博物館とポートアイランドの動物王国と連携をして、割引乗船券をさせていただいています。

今回の連節バスでも、私どもの観光船（シーバス）は、神姫バスと割引に関して協議してまとめればすぐにでも行うことはできます。ただ他の観光船の事業者を巻き込むことができるかはわかりませんが。

バスと船の連携として、船で1時間くらい遊覧し、バスに乗って次の観光地に行くことは面白いと思いますので、是非進めていきたいと思っています。

○会長

資料にある通り、今後、（仮）利用促進部会を想定されていますが、バスの運行の準備で忙しく、この部会そのものはまだ動いていません。利用促進としてもまちづくりとの連携を強めていくことは継続していきたい。本格運行までのPRをする上では、この枠組みで動く形とは未だいかないが、この取組は継続していただき、ハード面だけでなく、ソフト面にも最大限の活用を図ってほしいと思います。

○委員

連節バスのデザインとロゴデザイン等は、神戸らしい、カッコいいデザインになっていると思います。

先ほどの紐付けの話は、(仮)利用促進部会で進めることを期待しています。ただどうしてもバス中心の考え方なので、もう少し広げて欲しいと思います。

例えば、他の委員も言ったとおり磯上地区は2つのバス停に面しています。特に東遊園地のバス停においては、磯上公園、東遊園地が今後リノベーションされます。その動きにあわせて、磯上公園の南側の東西の道のサインや景観などを強化するなど、連節バス以外の動きにも展開していくことが必要です。磯上地区から東遊園地へ歩くと意外と近い。連節バス以外とのまちづくりとしての紐づけをやっていくべきと思っています。

PRは一步間違えると逆に感染拡大の効果となりますので、慎重になる必要はあると思います。個人的には、まずは神戸の子ども達を乗せたい。子ども達は乗りたいと思います。今回の式典の機会を使わずとも、まずは地元の子供達に愛されるバスになることが神戸らしいし、そんな展開にしたいと思います。ほっておいても連節バスはニュースになりますが、PRとしても神戸の子ども達を乗せる取組はよいと思います。

○委員

2点あります。1点目は、4月から本格運行ですが、私はある意味、本当の本格運行は4台体制となる7月からの運行で、勝負の段階に入ってくると思っています。

4月の運行に向けたPR・周知の広報も大事ですが、7月を見据えた広報であるべきですし、7月に4台で20分間隔の運行になることが重要ですので、4月が過ぎても、7月に向けて加速して進んでもらいたいと思います。

大変な時期に大変なプロジェクトで、負担は理解していますが、勝負のしどころですので、取り組んでいただきたいと思います。

2点目は、先ほどの子ども達の話はとても重要なことだと思いますので、是非やっていただきたい。その時のポイントとして、対象の小学生あるいは中学生、幼稚園児が、新しい乗り物で喜ぶだけでもいいのですが、その体験を家庭でも話がしやすい形で乗ってもらえる形にしてほしい。「バスに乗った」だけでなく、「新しいバスに乗った」、「今までとここが違うんだよ。すごかったよ」など彼らの周りの両親や兄弟等、色々な方に話をしてもらえると、そこからまた認知が広がっていく可能性もあります。そのことも配慮して取組をしていただきたいと思います。

○会長

1点目の話について、4月は2台体制で7月に4台体制になりますが、最初の2台体制のときに「なんだ30分置きか」という概念が定着すると恐ろしいと思います。完成形のサービスを絶えず市民にPRしていく必要があります。完成形での運賃の体制や時刻はこうなりますという情報を浸透させていくことは大事です。

○事務局

1点目の神戸の子ども達に乗ってもらいたいというお話は、非常に共感できる内容だと思います。

1点考えていることがあります。神戸の小学生の校外学習でメリケンパークやポートタワーに来ることがあると思いますが、その際、教育委員会と連携して、公共交通機関を使う際には、連節バスを使ってもらおうことを考えています。まだ教育委員会と全く協議ができていない事務局のアイデアですが、今後是非取り組んでいきたいと思っています。ただコロナの状況もありますので、いつから実現できるかわからないですが、そういった取組もできるのではないかと考えています。

2点目の7月の体制から本格運行の体制ではというのはご意見の通りだと思います。

PRのときには、7月の4台体制の運行を見据えたPRを同時に打ち出していきたいと思います。

○事務局

先ほどの説明の通り、7月で4台全て揃うこととなります。実際、新港町エリアのまちづくりは7月以降も続きます。そのことを考えながら、我々もPRをしていきたい。アクアリウムは報道によると来年の秋とも聞いています。7月で連節バスが4台揃い、次の10月に向けて、またその次にという形で進めていくことを考えています。そのあたりは皆様と情報共有しながら、進めたいと思っています。

お子様のご利用に関して、弊社も交通局が導入しているエコファミリー制度を導入しています。大人お一人につき土日祝だとお子様2人までは無料という制度です。このPRはプレ運行のときもできると思います。コロナについては我々も配慮をしないといけません、お子様と一緒に乗って、連節バスをまずは知ってもらうPRも取り入れていこうと思いました。

○委員

プレスで4月に本格運行と言った後、3カ月の間で7月から増便の情報を流したとしても、4月時点の「30分に1本か」というマイナスの印象を回避できるのかは怪しいと思います。7月に「そういう意見があったから導入したのか」という印象になるので伝え方は難しい。

一番のキャッチのところで、なるべく市民に誤解のないように、7月から完全な本格運行の状態になることをダイナミックに伝えることが必要と思います。

4月は本格運行ではなく、プレ運行等であり、7月はグランドオープンというようなレベルで言い方を変えておかないと、注意書きくらいでは伝わらないと思います。

○会長

私も気になっていました。車両が揃わないだけで、バスが4台揃えば、4月から4台で運行できます。

7月が最終的な運行形態となることを、事務局で伝え方を検討していただきたい。

○事務局

路線としては4月から正式に認可を得て走り出しますが、市民の理解は、法的な定義とは関係ありませんので、PR方法について、委員からもご意見をいただくとともに、神姫バスと一緒に考えながら、誤解のない広報の仕方を考えていきたいと思っています。

○会長

特に7月の運行で想定されるダイヤ、他の施設との連携、通勤バスとの関係など、可能な限りの完成形のイメージをできる限り示した方がよいと思います。方法にも注意していただければと思います。

○委員

最初のPRは大事だと思います。今は連節バスのことを市民すら知らないと思いますので、まずは認知について頑張っていけないといけません。例えば、連節バスの習熟訓練は、神戸市内で行いますので、試運転ですがPRに活かしていく。また市外から来る観光客に対しては、知名度も高いシティループと連携して行うことも大事かと思っています。

○事務局

試運転については、車両が導入され次第、随時、運行ルートや回送ルートを走行していきます。それをどこまでPRできるか現場と相談しています。例えば、「何時頃に連節バスが走ります。ご覧ください」などを告知する。また、LED表示等も工夫できるので、できる限りやっていきたいと思っています。

○会長

先ほど、港湾局からウォーターフロントと連節バスの関係の話をいただいたが、是非とも今後の開発・まちづくりのコンセプトに連節バスを組み込んでもらうことができると思います。また、都心三宮の再整備のなかでも連節バスを活かしていただければと思います。このあたりで港湾局と都心再整備課の方からご意見をいただけないでしょうか。

○委員

新港突堤西地区は、令和3年から施設ができていきます。今まで一般の方が訪れる場所ではないところを再開発して、都市機能を導入し開かれた空間にしていこうとするエリアです。公共交通機関として連節バスの期待感は大きく、連携は非常に大事と思っています。

また、単なる都心からウォーターフロントへの足の機能だけでなく、ウォーターフロントに来ていただける理由に繋がるものと思っています。三宮からバスに乗るタイミングで、ウォーターフロントの魅力や今日のイベント、施設の紹介など、お互いがPRし合いながら利用促進に繋げていければと思っています。

○会長

連節バスが馴染むような都市空間を作っていただけると、とても魅力的なまちになると私は思っています。

○委員

都心三宮の再整備の関係としては、回遊性向上のために非常に有効な手段と思っています。三宮クロススクエアの一番目立つところに連節バスのバス停を設けていますので、回遊性が向上するのではないかとと思っています。

デザイン的な面でも、三宮周辺の路線バスのバス停のトータルデザインを今後考えていかないといけない。連節バスはよいデザインになっていますので、参考にしたいと思っています。

話が変わりますが、トータルデザインという中で、私は音もその中の一つと思っています。JR三ノ宮駅の西口のトイレでジャズを流していて、非常に好評だと聞いています。例えば、バスの中に音楽を流し、路線ごとに神戸ジャズや神戸クラシックなど、音の環境を整えていくPRもあるのではないかとと思っています。

○委員

今後建設を予定しているバスターミナルは、まだ事業化したばかりで、供用の方はまだ先になります。供用した際は、連節バスと他の路線バスとも連携し、交通結節点づくりに取り組んでいきます。

○会長

三宮駅前にバスターミナルができ、2号線沿いにも乗降施設ができますので、重要な拠点になります。ターミナル近くに連節バスの乗降場があるのは利便性が高いので、今後、連携した案内などをしていただければと思います。

○事務局

先ほどの音について非常にいい提案をいただきました。我々も何かできることはないか検討していきたいと思います。例えば、案内放送をする前に少し音を鳴らす。私も横浜に行った際に、横浜では「次はどこ」と流れる前に音が流れていました。車両ごとに音が変わるのは難しいかもしれませんが、バス停ごとで音を変えるなど工夫できると思いますので、是非前向きに検討していきたいと思います。

○委員

PRについて、私どもがよく使う手法でメイキングビデオがあります。こういう成り立ちで連節バスができたというメイキングビデオを作るのはいかがでしょうか。神戸市内の色々な施設、例えば新神戸駅の地下鉄、かもめりあなどでビデオを流しています。神戸市と神姫バスとで、メイキングビデオを作れば、周辺の沿線でも市民や観光客に見ていただけますので、是非やっていただければと思います。

○事務局

シーバスは、インスタなど力を入れていて、参考にさせていただいていますが、メイキングビデオの話は想定していなかったです。バス停以外でも、少しでも市民の方に目に触れていただけるようなことを検討していきたいと思います。予算の限界もありますが、タイミングを見て実施していきたいと思います。

○会長

昨今もコロナ対策として、沿道で屋外にカフェを設けるといった話題もでています。デザイン性の高い連節バスが通ると、沿道も美しくなるのではと思っています。カフェ等が並ぶ沿道に連節バスが来て、お客さんと沿道との間で気づかないうちにコミュニケーションが生まれるかもしれません。連節バスが絶えず運行することで、すぐにではないですが、まちを美しくする効果があるのではないかと思います。

予定しておりました時間もあまりありませんが、全体を通じて特に意見・発言はないでしょうか。

(特に意見なし)

大事な本格運行を直前に控えて、コロナの影響で利用していただけるお客さんを確保するのも難しい状況になり、色々な制約を受け、事務局は大変ご苦心されていると思います。事務局の皆さんには最後までプレ運行・本格運行の実施に向けてご尽力を賜りますとともに、沿道の団体の皆様、関係機関の皆様にも是非ともご協力をいただきたいと思います。

色々な観点から連節バスをPRする方策を考えていただき、一丸となって取り組んでいきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○事務局

委員の皆様におかれましては、長時間にわたり活発なご議論をいただき、ありがとうございました。いよいよ4月からは本格運行と、今回の議論で運行開始という表現になるかもしれませんが、時期が迫ってきています。いただいた意見を踏まえ、まずは安全管理をはじめとして、定時性の確保等運行をしっかりとしていきたいと思います。注目されるプロジェクトでもありますので、いい意味で神戸の魅力となるものにしていきたいと思います。ハードだけでなく、まちづくりとの紐づけも大事であるという意見もいただきました。連節バスは確かに移動の一つの手段ではありますが、それだけでなく、我々も地域の活性化につながっていくことやその継続等につなげていくことが大事であると思っています。引き続き、協議会のご意見もいただきながら、よいものにしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

次回の協議会は、来年2月頃を開催予定にしています。本格運行の内容や令和3年度の取組みについて、説明をさせていただきたいと思います。詳しいことは、改めて事務局より連絡をさせていただきますので、引き続き、ご協力をお願いします。

本日はこれを持ちまして閉会とさせていただきます。本日はお忙しい中、ご出席いただき、ありがとうございました。